

IEEJ Industry Applications Society News Letter

電気学会産業応用部門ニュースレター 2010年1月号 (http://www2.iee.or.jp/ver2/ias/22-newsletter/nl_2010.html)

「部門国際化委員会からのご報告」



電気学会産業応用部門国際化担当役員
引原 隆士 (京都大学)

産業応用部門では、平成21年度に、電気学会が行う国際活動のうち、産業応用部門に係わるもの及び電気学会、他部門との連携の下に推進されるものについてその効果的かつ円滑な遂行を図ることを目的として、部門国際化委員会を常設委員会として設置することとなった。遡ること平成19年に、産業応用部門では、電気学会の運営の下のように国際化に関わって行くかを検討し推進を図るため、他部門に先立って国際化担当役員を置くこととなった。その役員に小職が就任させて頂くことになり、その後部門長のご指導の下、部門の国際化の活動のありかたを検討するWGを設置し、議論を重ねた。その議論を受けて、平成21年度に、上記常設委員会の設置に関して学会より承認され、活動を開始した。

部門国際化委員会の主要な掌握事項は、

- (1) 部門の国際活動に関する基本的な考え方、理念、方法、範囲などについての審議
- (2) 海外関連学術機関（学会）との関係、国際会議開催協議に関する審議
- (3) 部門が開催する国際会議、及び部門国際活動資金の運用に関する審議
- (4) 部門が開催する国際会議の支援体制
- (5) 部門論文誌の英語化に関わる長期ビジョンの策定と提案
- (6) 部門の国際化のための諸施策としてのホームページやニュースレターなどによる海外へのPR活動の展開

である。お分かりの様に、本委員会だけで全ての対応ができる訳ではなく、学会本部、関連役員、委員会との連携のもと推進することが重要であることは言うまでもない。

学会本部には国際活動委員会があり、各部門の国際化に関わる活動と学会全体の活動の擦り合わせや、よりスムー

ズな国際化にむけた議論がなされている。部門国際化委員会の活動は、本部国際活動委員会でも注目して頂いており、国際活動資金の運用に関する部門独立化を受けた体制の確立は、時宜を得たものであり、いち早く産業応用部門が体制を整えて、部門独自に国際会議を推進する形ができ当った。これに関連して、従来学会主催の国際会議であったIPECについては部門主催へ変更が認められ、アジアにおけるパワーエレクトロニクスの国際会議として認知を受ける中、中国、韓国などとの調整、IEEE、EPEなどとの連携など、全てを部門として決定して行くことができるようになった。また、国内外の国際会議に関する他学会との相互の協賛に関する審議とMOU締結などが全てこの部門国際化委員会での審議で迅速に決定されるなど、非常に効率的な運用が可能になっている。

一方で、部門で全ての活動を行うにはそのスタッフが十分でない。学会本部は国際化に関しては、部門の活動を支援するといった考え方に推移していることから、利害的に対峙するのではなく、サポートを仰ぎながら国内外の動きの中で位置取りを誤らないよう努力して行く必要がある。また、学会全体の国際化に関する意識の違いを十分に認識した上で、部門が率先して行う国際化のための活動の方向性を明確にして行くことが部門国際化委員会に課せられている。

小職が国際化担当役員に就任して2年半が経ち、現状で活動が定常化した。これは備えができたという段階である。今後は部門として国際的に攻めのフェーズに移行する必要がある。技術委員会の国際活動化、国際的なプロジェクトの支援、そして新しい技術分野の創造と融合に向けて、本委員会の活動は重要となる。会員の皆様の積極的な関与とご支援を賜れば幸いです。